

記入日 2017年1月13日

1. 概要

実践団体名	岡山市立曾根小学校		
連絡先	086-298-2006		
プランタイトル	みんなで高めよう，防災力・地域の絆！		
プランの対象者※1	小学生（低・高） 保護者，地域住民	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

岡山県南部は、昭和南海地震（昭和21年）以降、地震や台風といった大きな自然災害に見舞われることがほとんどなかった。国内的には、比較的安全な県というイメージがある。しかしながら、想定される南海トラフ地震がひとたび起これば、甚大な被害を免れない。地域と始めた学区民防災訓練は5年目を迎え、見直しが図られている。そこで、地域と連携し、継続して取り組める曾根小学校としての防災教育を確立し、「自助」、「共助」の意識の高揚と、実践力の向上を目指す。

【プランの概要】

- ・自立した児童を育成するため、心肺蘇生法研修や地震体験車などの体験的な活動と共に、自然災害の脅威や生命の尊さを学ぶ授業を教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等で行う。
- ・地域が行う学区民防災訓練に小学生全員が参加する。
- ・学区民防災訓練での研修会で、小学生・中学生が防災学習の成果を発表する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・5年生の総合的な学習の時間では「だれもが暮らしやすい曾根にするために、災害から身を守るについて調べてみよう」をテーマに、班で調べたことを地域に対して発表することで地域住民としての自覚を持たせる。
- ・6年生の心肺蘇生法研修では、体験的に学ぶことで、いざというときに人を助けるためには知識や技術が必要であることや強い気持ちが必要であることを学び、将来のボランティアにつなげたい。
- ・これまで、学区民防災訓練への参加者は60代以上がほとんどで、30～40代の参加が少なかった。今回、「家族で避難」を合言葉に小学生が全員参加することで、30～40代の参加を促し、地域の防災意識の向上につなげる。

2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	2016 防災教育チャレンジプラン実践計画立案		
5 月		5 年総合的な学習の見直し	児童会：熊本地震募金活動 5 年総合：熊本地震を調べる
6 月			5 年総合：地震ニュースまとめ 6 年特別活動：心肺蘇生法研修
7 月			5 年総合：震災ボランティアの話を聞く会 全学年：安全マップづくり
8 月			教職員研修：3・11 と熊本地震から曾根学区の地震防災を考える
9 月	2016 防災教育チャレンジプラン実践計画の見直し	曾根学区民支え合い防災体制づくり事業の事前の打ち合わせ	
10 月	中間報告会参加 計画の修正	第 1 回曾根学区民支え合い防災体制づくり推進協議会	鳥取県中部地震（震度 4）避難対応
11 月			5 年総合：地震を調べる
12 月		第 2 回曾根学区民支え合い防災体制づくり推進協議会	全学年特別活動：防災学習 地震体験車（3, 5 年） 予告なし地震避難訓練
1 月	実践のまとめ提出		5 年総合：地震学習の発表 全学年道徳：命の大切さを学ぶ 曾根学区民防災訓練
2 月	最終報告会参加		
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	6年心肺蘇生法研修
実施月日（曜日）	平成28年6月6日（月）
実施場所	曾根小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：大山 護 所属・役職等：日本赤十字社岡山県本部奉仕青少年係長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	13 体験学習
活動目的※5	4, 7
達成目標	心肺蘇生法, AEDを使用することができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①心肺蘇生とは ②心肺蘇生法の手順 ③AEDのしくみ ④人形を使つての実習
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・日本赤十字社岡山支部指導者 ・心肺蘇生用ダミー人形 ・AED
参加人数	小学6年生 31人
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 ・人が倒れた場面に遭遇したとき取るべき行動を習得することでいざという時の心構えができた。 【課題】 ・単年度で終わらせず、毎年継続して行うこと。 ・5年、6年と2年続けて行くと、技術の習得につながる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	5年総合「だれもが暮らしやすい曾根にしよう」
実施月日（曜日）	通年
実施場所	5年教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：山田雅人 所属・役職等：曾根小学校第5学年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	20コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	地域に対し、防災学習の成果を発表する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①熊本地震関連のニュースを調べ、地震の問題点を調べる。 ②「地震の原因」「地震後の生活」「防災の街づくり」「震災ボランティア」等について調べる。 ③曾根学区民総合防災訓練の集まりで、班ごとにポスターセッションを行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・調べ学習用書籍・絵本 ・子ども新聞 ・ホワイトボード ・ポスターセッション用文具類 ・岡山南消防署
参加人数	第5学年26人
経費の総額・内訳概要	約6万円（地震関連の書籍，文具類）
成果と課題	【成果】 ・調べ学習をまとめ、保護者に発表できた。 ・地域住民や保護者を対象に、ポスターセッションを行うことができた。 【課題】 ・曾根学区民総合防災訓練のすぐ後でのポスターセッションとなったため会場内がざわつき、落ち着いた発表の場とはならなかった。
成果物	ポスターセッションの掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	防災学習
実施月日（曜日）	12月7日（水）、8日（木） 避難訓練12月12日（月）
実施場所	曾根小学校教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 所属・役職等：1～6年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	1・2・4・6年：45分 3・5年：2コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	6 学級活動
活動目的※5	6 防災に関する知識の習得と防災体験活動
達成目標	緊急地震速報を理解し、身を守る行動がとれる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①緊急地震速報とはどんなものかを知る。 ②身のまわりにはどんな危険があるか知る。 ③身を守るための行動を知る。 ④地震による災害を知る。 ⑤3, 5年生は地震体験車による地震体験を実施 ⑥予告なしの地震避難訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・緊急地震速報の音源（CD） ・まもるいのちひろめるぼうさい（日本赤十字社）等の教材 ・ホワイトボード ・岡山消防署地震体験車
参加人数	小学生151名
経費の総額・内訳概要	3万円（ホワイトボード、CD-R等）
成果と課題	【成果】 ・緊急地震速報を学習したうえで避難訓練を行ったため、避難行動が落ち着いてできた。 ・地震体験車による地震の揺れの体験は、5年生の防災学習への弾みとなった。 【課題】 ・防災学習での教材の学年による内容の重複を防ぐ。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	校内研修「地震防災」
実施月日（曜日）	平成28年8月8日（月）
実施場所	曾根小学校図書館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：西村敬一（岡山理科大学客員研究員） 所属・役職等：中曾根篤史（岡山市教育委員会指導主事）
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間30分
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	地震防災を進めるうえでの課題と避難所運営の問題点を理解する。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	教職員対象の研修会の実施 ①「3.11と熊本地震に学び、曾根学区の地震防災を考える」 ②「避難所運営での教員の関わり」～熊本地震のボランティアに参加して～ 中学校区内の小中学校にも案内を配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・パソコン、プロジェクター、スクリーン
参加人数	25人（内中学校区教職員8名）
経費の総額・内訳概要	講師代 15,000円 岡山市教育委員会「学校安全アドバイザー活用事業」を活用
成果と課題	【成果】 ・東北地方太平洋沖地震と熊本地震の科学的なデータに基づいた南海トラフ地震の被害想定が示され、事の重大さを共有できた。 ・避難所での教職員の立場を具体的に学ぶことができた。 【課題】 ・岡山県は自然災害による被害が比較的少なく、災害に対する感覚が鈍い。今回の研修後も、防災教育に対して受け身な姿勢の教職員がまだ見られる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	曾根学区と昭和南海地震（体験談の講話）
実施月日（曜日）	平成29年1月16日（月）
実施場所	曾根小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：猶原憲作 所属・役職等：元曾根地区連合町内会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	20分
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会
活動目的※5	8 曾根地区の歴史を学習
達成目標	干拓の歴史と南海地震の恐さを知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①昭和南海地震の体験者に講演の依頼をする。 ②打ち合わせ（小学生に分かるような話のお願い） ③全児童を対象とした講演会を行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・地域の昭和南海地震体験者 ・プロジェクター、パソコン ・CDデッキプレーヤー
参加人数	170名（児童，教職員）
経費の総額・内訳概要	講演のお礼（手土産）
成果と課題	【成果】 ・地域で起きた地震被害を聞くことで、南海トラフ地震への心積もりができた。 【課題】 ・過去の経験を語り継ぐ仕組みづくり
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	曾根学区民防災訓練
実施月日（曜日）	平成29年1月21日（土曜日）
実施場所	曾根小学校区
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：曾根学区民支え合い防災体制づくり推進協議会 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムの カテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	町内会ごとに円滑な避難訓練ができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8時地震発生，身を守る行動 ・ 各町内会の指定集合場所への一次避難 ・ 大津波発生を想定した曾根小学校3階への二次避難
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会ごとの名簿 ・ 保護者・地域住民への案内ビラ
参加人数	保育園園児，小学生，地域住民 合計700人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会ごとの安否確認の実施 ・ 家族ぐるみの避難訓練ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生や高校生の参加を促す。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	防災・減災についての研修，操法訓練
実施月日（曜日）	平成29年1月21日（土曜日）
実施場所	曾根小学校区
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：曾根学区民支え合い防災体制づくり推進協議会 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間30分
プログラムの カテゴリ、形式※4	2 講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域住民に小・中学校での防災学習について知らせる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・曾根小学校5年生のポスターセッション ・防災士による講演会 ・興除中学校1年生の防災学習発表 ・曾根消防団の操法訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・興除中学校1年代表 ・防災士2名 ・曾根消防団 ・プロジェクター ・暖房用ジェットヒーター
参加人数	小学5・6年生，地域住民 100人
経費の総額・内訳概要	約10万円（ジェットヒーターレンタル代，地域案内ビラ費等） （曾根学区民支え合い防災体制づくり推進協議会が負担）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での防災学習について地域が知ることができた。 ・消防団の活動について小学生が知ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の参加者数を増やす。
成果物	ポスターセッション用の掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの防災学習は、学期1回の避難訓練と全学年1時間程度の防災教室であった。防災教育を学校教育の中に位置付けるには、柱となる学習活動が必要と考えた。そこで、5年の総合的な学習の時間「だれもが暮らしやすい曾根にしよう」の中で20時間の防災学習に取り組むこととした。 ・これまで学区民防災訓練には多くの方が参加し、素晴らしい実績を残してきた。その中で、小学生を学区民防災訓練に参加させるという新たな提案をしたため、訓練の見通しが見えにくくなり、調整段階で混乱が生じた。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年の総合的な学習の時間の担当者は、大幅な学習計画の見直しが必要となり、資料収集や教材研究に時間を費やした。また、単なる調べ学習に終わらないように、震災ボランティアの講演や地震による揺れを体験するための地震体験車を取り入れたが、そのための交渉や手続きも大変であった。 ・学区民防災訓練では、小学生の点呼・誘導を誰が行うかということが問題となった。教職員がつけば簡単ではあるが、小学生が家庭にいる場合を想定した避難訓練であるため、教師はノータッチを貫くこととした。そこで、PTAが各町内会単位で責任者を出し、小学生・保護者の対応にあたるということとした。 ・地震体験車は、雨の日は不可ということで、比較的雨の少ない12月に設定した。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業中心の地域であるため、防災訓練の実施日は、1・2学期には取れないということで、1月21日に決まった。冬の真っ只中であり、老人や身体障害者には寒さ厳しい避難訓練となった。雨の場合でも行うこととした。ただ、避難訓練後の体育館での研修会には、暖房用として大型のジェットヒーターを用意した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> 岡山市教育委員会 曾根保育園 岡山市立興除中学校 	教職員研修 学区民防災訓練 防災学習の成果発表
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> 曾根小学校PTA 	学区民防災訓練
地域組織	曾根学区連合町内会，曾根学区婦人会 曾根学区子ども会育成連絡協議会 曾根学区体育協会，曾根学区愛育委員会 曾根学区栄養改善協議会 曾根小学校区老人クラブ連合会 民生児童委員・主任児童委員 助けられ上手研修OB会 消防団興除第二分団	学区民防災訓練
国・地方公共団体・ 公共施設	岡山市南区役所	学区民防災訓練
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	<ul style="list-style-type: none"> 日本赤十字社岡山県支部 岡山南消防署 	心肺蘇生法研修 地震体験車

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○防災教育に「地震体験車」や「心肺蘇生法研修」といった体験活動を取り入れたことで、地震や共助といったことに対し、児童の関心が高まった。</p> <p>○本校は、これまで地域と共に行ってきた学区民防災訓練に、やや受け身の姿勢であったが、教育活動に位置付けることで地域に積極的に発信するようになった。また、防災以外でも地域とのつながりが深まった。</p> <p>○これまでの防災教育は、取組が単発的であった。今年度は年間を通して様々な視点から防災・減災を学ぶことに取り組み、教員の意識向上につながった。</p> <p>○本校で開催した教職員対象の防災教育講演会には、中学校区の教職員が8名参加した。また、学区民防災訓練では、中学校1年の生徒による防災学習発表ができた。小中連携の推進につながった。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>今回、講演会講師の経費や学区民防災訓練の見直しでは、防災教育チャレンジプランの実践校となることで岡山市教育委員会や学区の町内会の協力が得られ、スムーズに進められた。</p> <p>今後の課題としては、防災教育を持続可能な教育として定着させ、次代に引き継いでいくことである。そのためには、しっかりとしたカリキュラムの整備と共に、内容を検討し新しい活動にチャレンジしていくことである。また、防災関係の研修会には防災教育担当者だけでなく、様々な教員の参加を促していくことが重要である。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>E S Dの視点に立った防災教育として継続的に発展させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での定期的な避難訓練と防災教室の実施 ・高学年では、地域社会の一員として自他の命を守るため知識や技能を体験的に学ぶ活動を継続する。（6年心肺蘇生法研修，5年総合的な学習） ・地域と連携した学区民防災訓練を毎年実施し、家族や地域と防災を考える機会とする。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

1 防災教育関連書籍

- | | |
|-----------------------|--------|
| ①防災かあさん | 羽鳥書店 |
| ②NHK学ぼうBOSAI命を守る防災の知恵 | 金の星社 |
| ・地震・津波はどうして起きるのか | |
| ・被災者に学ぶそのときどう行動したか | |
| ・噴火・台風・竜巻・落雷どう備えるか | |
| ③日本列島の大研究 | PHP研究所 |
| ④3・11が教えてくれた防災の本 1～4 | かもがわ出版 |
| ⑤知ろう!防ごう!自然災害! 1～3 | 岩崎書店 |
| ⑥子どものための防災訓練ガイド 1～3 | 汐文社 |
| ⑦アニメ版釜石の“奇跡” | 新日本出版社 |
| ⑧あわてないあわてない | 童心社 |
| ⑨いなむらの火 | 童心社 |
| ⑩台風がきたぞ | 童心社 |
| ⑪地震って、どうして起きるの? | 埼玉福祉会 |
| ⑫地震がきたらどうするの? | 埼玉福祉会 |



2 防災教育用教材及び参考資料（小中学校用）

- ①まもるいのち ひろめるぼうさい（青少年赤十字防災教育プログラム） 日本赤十字社
- ②「防災まちづくり・くにづくり」学習ワークブック 内閣官房国土強靱化推進室
- ③「生きる力」を育む防災教育の展開（学校防災のための参考資料） 文部科学省
- ④防災教科書 ～楽しく学ぼう!～ JCI 公益法人岡山青年会議所
- ⑤防災手帳 一般社団法人 社会応援ネットワーク
- ⑥災害から「いのち」を守ろう—小学校高学年向け防災教育支援資料— 岡山地方気象台
- ⑦視聴覚資料（DVD）
 - ・津波からにげる（気象庁）
 - ・自然災害から命を守るために（岡山地方気象台）
 - ・地震・津波災害に備える（岡山県）

（自由記述： 1/3）

3 活動の様子

① 6年生児童の心肺蘇生法研修



② 地震体験車研修



③ 予告なしの地震避難訓練



図書館



グラウンド

④ 地域との会議



⑤ 防災教育チャレンジプランの啓蒙



(自由記述: 2/3)

⑥ 曾根学区民防災訓練



中学生の発表



防災士による講話

4 地域へ配布した防災訓練の案内ビラ

「いざ避難! みんなで高めよう、防災力・地域の絆!!」
★★★★ 曾根学区民の防災訓練にご参加を!! ★★★★★
開催日時 平成29年1月21日(土)午前9時
場 所 岡山市立曾根小学校 雨天の場合はプログラムを
変更してまいります
南海トラフ巨大地震(津波)を想定して、児童と共に避難!

9:00	曾根小学校へ避難! 順次 校舎3階→体育館へ	校舎
9:10~ 9:25	5年生児童による各ブースの説明(地震災害について) 防災ボランティアセンターについての展示パネル	
9:30	開会、来賓挨拶	
9:40~ 9:55	興除中学校1年生の防災学習発表	体育館
10:00~ 11:20	防災士による講話 及び実技指導 「避難所で役立つ知識とクロスロード」	
11:25	閉会	
11:35~ 11:50	消防団の操法訓練見学	校庭
12:00	児童・園児の保護者への引き渡し訓練	校舎
12:10	解散	校庭 校舎

主催: 曾根学区支え合い防災体制づくり推進協議会・曾根小学校・曾根保育園
(構成団体: 曾根学区連合町内会・各種団体)

(自由記述: 3/3)